

教育センターだより

令和3年度 第2号

黒部市教育センター

いのちは大切？

黒部市教育委員会

教育長職務代理者 雪山 俊隆

「いのちの大切さ」を語るには、そこに内包する「老・病・死」の問題を切り離すことはできません。その視点に立つと、現代ほど「老・病・死」に触れる機会が少なくなったことは過去にないでしょう。核家族がスタンダードになり、離れて住むおじいちゃんやおばあちゃんもいつの間にか施設に入り、病になれば病院、葬儀はごく身内で行われるようになりました。ひと昔前は生活の中に当たり前であって、染み込むように感じ取っていたものが、今は遠い存在で自分事として考える余地がありません。その上で、「生」だけを切り取って大切さや尊さを謳っても空虚なことになってしまいます。

精神科医の松本俊彦先生のお話によると、中高生の約1割の子は自傷の経験があり、その中で96%は誰にも告げずにその行為に及ぶそうです。その多くは、家庭環境に問題があったり、学校で嫌な思いをしたりしている場合があります。そのような子たちに、多数派に属する大人が「いのちの大切さ」を曖昧な表現で語っても、余計に自分自身を否定されたと受取り、遠ざかっていきます。

1割というのは他人事ではなく、自分自身にも向けられることだと思います。私の心にも1割、縁に触れれば虚無感に襲われたり、自暴自棄になったりする心があります。調子がよい時は「いのちは大切」と思っても、いざ絶望的な状況に立たされると「こないのちなんて…」と思ってしまうのが本当の私の姿ではないでしょうか。

松本先生いわく、信頼できる大人になるためには、子どもが過ちを犯した時に、いきなり善悪の価値判断を決めつけず、共に考えてみる。そして、自分の手に負えないと思った時には、仲間や専門家に相談してみんなで支えることが大事だと言います。現在、教育の現場はそのような流れにあると思いますが、多数派が少数派を苦しめている現実を目を背けず、ともに学び、ともに悩み、問いを共有していけることが望ましいと思います。





全国学力・学習状況調査の結果（黒部市）



5月に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせいたします。

I 教科に関する調査について

(1) 全体的な傾向

- 小・中学校ともに、全国の平均正答率を上回っている。
- 小学校では、全国と比べて、標準偏差（中央値からのばらつき具合）の値が小さい。中学校では、国語は小さいが、数学は全国と同程度である。

(2) 各教科の結果

【小学校 国語】

- 全ての領域において、全国平均正答率を上回っている。
 - ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がみられる。

【小学校 算数】

- 全ての領域において、全国平均正答率を上回っている。
 - ・複数の図形を組み合わせた図形の面積について量の保存性や量の加法性を基に捉えて比べること、速さを求める除法の式と商の意味を捉えることに課題がみられる。

【中学校 国語】

- 話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域では、全国の平均正答率を上回っている。
 - ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域では、相手や場に応じて敬語を使うことに課題がみられる。

【中学校 数学】

- 数と式、図形、資料の活用の3領域では、全国の平均正答率を上回っている。
 - ・関数の領域において、関数の意味の理解に課題がみられる。
 - ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。

改善に向けて

【確かな学力の育成～基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けて～】

- ・つまづきやすい場面の予測とその手立てを考えておきましょう。
- ・導入では、「どんなこと」を「どのように」学ぶのか、「時間配分」等を明らかにし、学習の見通しをもたせましょう。
- ・児童生徒が学習課題について自分なりの考えをもつことができるように、書く活動や具体的な体験を取り入れた活動等を工夫しましょう。机間指導で児童生徒の学習状況を把握し、指導に生かしましょう。
- ・本時の学習のねらいに沿って、「何を学んだのか」を教科の用語を用いてまとめたり、適用問題を解いたりなど、身に付いた知識及び技能を確認できるようにしましょう。
- ・授業の終末に家庭学習につながる課題を与えるなど、授業と家庭学習との連動を図りましょう。
- ・目標の達成状況を確認し、それぞれに応じた個別指導や補充的な指導等を行いましょう。



2 児童生徒質問紙調査について



(1) 良好と思われる主な項目（全国及び前回調査との比較より）

◇小・中学校ともに該当する項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

◇小学校に該当する項目

- ・国語の勉強はよく分かる。

◇中学校に該当する項目

- ・朝食を毎日食べている。
- ・地域や社会をよくするためにできることを考えている。
- ・国語の勉強は好きである。



(2) 課題がみられる主な項目（全国及び前回調査との比較より）

◆小・中学校ともに該当する項目

- ・人が困っているときは、進んで助けている。

◆小学校に該当する項目

- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・算数の勉強は好きである。

◆中学校に該当する項目

- ・学校の授業時間以外に、普段の勉強時間は1時間以上である。
- ・数学の勉強は大切だと思う。



改善に向けて



【家庭学習を計画的に進めさせるために】

- ・日頃から児童生徒の家庭での過ごし方について把握するように努め、児童生徒自らが日常生活を振り返り、生活時間を見直す場をもちましょう。

【自己有用感を育むために】

- ・児童生徒の目標を踏まえ、どこまで達成できたかを確認、「認め・励ます」言葉かけを心がけましょう。
- ・将来の夢や目標をもつことができるように、キャリア・パスポートを活用し、キャリア教育の充実を図りましょう。児童生徒が「なりたい自分」をイメージしながら、「今の自分」を振り返る時間を確保し、教師さらには児童生徒同士が、「認め・励ます」機会を大切にしましょう。

【算数・数学のよさを実感させるために】

- ・具体物を操作したり、日常の事象を観察したり、身近な問題を解決したりするなどの具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形について理解したり、算数・数学を学ぶ意義を実感したりする機会を大切にしましょう。

今年度市内小・中学校に着任された

新規採用の先生方をご紹介します。 <学校順に掲載>



「学ぶ姿勢を大切に」

たかせ小学校 萩原 真弥

初任者として自ら学ぶ姿勢を大切にしてきました。授業づくりや学級経営等、周りの先生方から助言を頂きながらよりよくしていこうと努力しています。また、子供たちが楽しく学校に通い、楽しく学んでいけるように自分自身まだまだ成長していかなければと感じています。そんな中で、子供たちが「今日の授業楽しかった。」と言ってくれたり、子供たちの成長を見ることができたりしたときはとても嬉しいです。

これからも子供たちと共に成長し、新たな気付きや学びを自分の糧にしていきたいです。

「子供たちの輝きと共に」

石田小学校 高崎 祐華

教員生活が半年経ち、その中で多くの出来事がありました。失敗し落ち込むこともありました。子供たちが日々元気に学校に来て挨拶をしてくれる度に前向きな気持ちになりました。

また、子供の何気ない一言ではっとさせられることも多くあります。子供と同じように自分も、もっと成長できることがたくさんあると感じさせられます。子供たちの輝きと共に、自分も成長していきたいと思います。

「憧れの先生になって」

中央小学校 荒川 佳帆

教員としての約半年間、長いようであっという間でした。毎日が新しいことの連続で、挫けそうになったこともありました。それでも、毎日の「先生ー！」という子供たちの元気な声と可愛い笑顔、周囲の先生方の優しい声かけやサポートのおかげで乗り越えることができました。

可愛い子供たちと素敵なお先生方に出会えたこと、中央小学校で憧れだった教員として働くことができ本当に幸せです。これからも、子供たちに負けない元気パワーで頑張ります。

「夢を叶えてそれから」

中央小学校 高見 実希

この数か月間を漢字一文字で表すと「駆」です。自分の生活が一変し、子供たちと目まぐるしい日々と一緒に駆け抜けています。小学生から夢見ていた教員になり、理想と現実のギャップでめげそうになることばかりです。それでも踏ん張れるのは、私を慕う子供たちや、温かく応援してくださる先生方のおかげだと思います。

「教員になる」という夢は叶いました。今の夢は「子供たちが『毎日会いたい』と思える教員になること」です。この夢を叶えるために、今後の教員生活を楽しんでいきたいです。

「子供たちから学ぶ」

桜井小学校 畑 亜里沙

最初は、分からないことばかりで不安な日々が続いていました。そのとき、周りの先生に「分からないことは、子供たちから教えてもらおうといいよ」と教えて頂きました。それから、子供から学ぶことも大切にしています。また、困っている友達を助ける姿、みんなで協力して頑張る姿を見たとき、教員になってよかったと改めて感じます。

子供たちにとって、学級が安心できる居場所となるよう、これからも精進していきたいと思えます。

「『できた』『楽しい』を大切に」

桜井小学校 山崎 凌

4月からあっという間に8ヶ月あまりが経ちました。子供たちと接していく日々の中で、気付かされることも多々あり、周りの先生方に助けていただきながら、教員として過ごしています。

子供たちの「できた」「楽しい」と感じる瞬間、生活していく中で多くある「笑顔」になる瞬間を増やしていけるように、一日一日を大切に今後も自己研鑽に努めていきたいと思えます。

「一日一生」

宇奈月小学校 野村 侑希

宇奈月小学校の教員となって約半年が経ちました。大変なことや落ち込むこともありますが、笑いがある充実した日々を送っています。それは、元気いっぱい、時々「先生、字がきれいだね」などと忖度してくれる優しい子供たちと、的確な助言や励まし等でたくさんサポートして下さる周りの先生方のおかげです。

これからも、そんな子供たちや先生方との一日一日を大切に、子供たちが笑顔で過ごせるように日々精進していきたいと思えます。

「教職に就いて」

清明中学校 成瀬 友基

大学を卒業してからは7年間、民間企業で営業職をしていました。その後2年間、高校での講師経験を経て、黒部市立清明中学校で1学年担任として勤務しています。実は黒部市は営業時代に最初の数年と最後の年を担当していたこともあり、縁のある土地だと思っています。

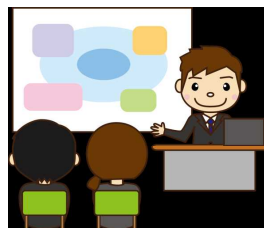
教員として未熟な点が多いことを痛感する毎日を送っていますが、生徒たちが授業をはじめとする多くの場面で自分の指導に頑張っただけで応えようとしてくれる姿に、活力をもらっています。担任というこれまで以上に生徒に近い立場で、生徒と共に成長していきたいと思えます。

原稿をお寄せいただきありがとうございました。子供たちと共に、全力で取り組んでおられる先生方の熱意が感じられました。先生方の成長を応援しています。



夏季研修会・各種研究委員会

夏季休業に実施しました研修会及び各種研究委員会について紹介します。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月18日（水）の特別支援教育研修会については延期（12月14日実施）、8月25日（水）の生徒指導に関する研修会は中止とし、資料のみ配付しました。たくさんの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。



【外国語教育研究部会】

○7月26日（月）〈対象：外国語教育研究部員 13名〉

英語の指導の動向や課題を見極め、それを年間指導計画の作成や修正に生かすことを目的に年に2回開催しています。昨年度の黒部国際化教育アンケートの結果をもとに、外国語科における「読むこと」「書くこと」の現状や英語の指導における工夫や悩み等について、2グループに分かれて情報交換しました。小学校における外国語活動から外国語科への接続、小学校から中学校への接続について、児童生徒の実態を踏まえて現状を話し合いました。

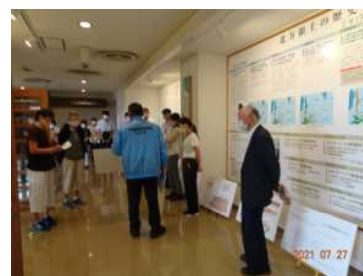


【郷土を学ぶ研修会】

○7月27日（火）〈対象：社会科研究委員及び希望者16名〉

研修1では、元島民の方による解説と史料室見学を行い、北方領土返還運動の歴史や黒部市とのかかわりについて理解を深めました。研修2では、十二貫野用水（第一分水、竜ノ口、十二貫野湖）を黒部川左岸土地改良区工務管理課職員による解説を聞きながら見学しました。

参加者からは、「黒部市から北方領土へ多くの方が住むことになった歴史的な背景を知ることができた。子供に伝えたい」「中学校でも地域教材として取り上げ、教材化する価値があると感じた」といった感想が聞かれました。



【道徳教育に関する研修会】

○8月2日（月）魚津地区教育センター協業事業

〈対象：魚津管内希望教員87名うち市内教員21名〉

上越教育大学上廣道徳教育アカデミー所長 早川裕隆先生を講師としてお招きし、「道徳科授業のさらなる深い学びの実現を目指して～役割演技を取り入れた授業づくりの実際と評価～」と題して、ご講演していただきました。道徳科における問題解決的な学習について、「小学どくとく ゆたかな心」4年（光文書院）教材「貝がら」を通して、実際に授業の流れや発問、役割演技を考えました。

参加者からは、「役割演技の認識が違った。自分の思いや本音を語っている役割演技を通して、周りの自分も心を動かされた」といった感想が聞かれました。



【外国語教育研修会】

○8月5日（木）〈対象：魚津管内希望教員35名うち市内教員、JAT、JET25名〉

富山大学大学院 教授 岡崎浩幸先生を講師としてお招きし、「英語の好きな児童生徒の育成～小・中連携の視点から～」と題して、ご講演していただきました。小・中連携の主要な要素及び共通の学習指導内容について学び、子供の学びの質を高めるための授業改善について、リスニングやスモールトークを実際にやってみました。



参加者からは、「書く、読むが入ったことで指導に迷いがあったが、音声中心のやり取りを大切にしていくことを改めて感じた」「スモールトークの扱い方がよく分かった。生徒の興味をもてるような活動をどんどん取り入れていきたい。『やり取り→発表→書く』という流れが自分の授業では不十分だったので、ぜひ授業で取り入れたい」「小学校の先生方と一緒に学べたことで、これまで小学校の英語教育についてこちらで勝手にイメージしていた部分が明確になった」といった感想が聞かれました。

【理科実技研修会】

○8月6日（金）〈対象：理科教育研究委員、希望教員14名〉

富山県総合教育センター科学情報部から4名の講師をお招きし、学校周辺の自然観察の仕方や卓上簡易てこ実験器の制作、気体検知管の使い方について学びました。



参加者からは、「2学期教材で、すぐに役立つ。手軽な道具でてこが手づくりできるところがよかった」「中学校では気体検知管は使ったことがないので、使い方が分かってよかった」「便利なアプリを教えてもらい、すぐに授業に生かせる。昆虫や植物の名前が調べられるのは便利」といった感想が聞かれました。

【学級づくりに関する研修会】

○8月10日（火）魚津地区教育センター協業事業

〈対象：魚津地区希望教員126名うち黒部市39名〉

教育実践研究家 菊池省三先生を講師にお招きし、「コミュニケーションあふれる学級づくり」と題してご講演いただきました。受講者は宇奈月小学校の会場または勤務校からオンラインにて受講しました。菊池先生の経験や実践をもとにしたコミュニケーションあふれる学級づくりのノウハウや「対話・話し合いの力」を高める学級・授業診断チェックリスト等を教えていただきました。



参加者からは、「目指したい子供の姿を教師がほめていくことで、子供たちに身に付いていくと感じた。あせらず笑顔で子供たちと接していきたい」「教師自身が上機嫌で子供と接することが、子供の環境に大きな影響を与えることを改めて感じた。温かい環境づくりに努めたい」といった感想が聞かれました。

中央研修の報告

道徳教育推進研修を受講して

黒部市立中央小学校 教諭 池亀 未央

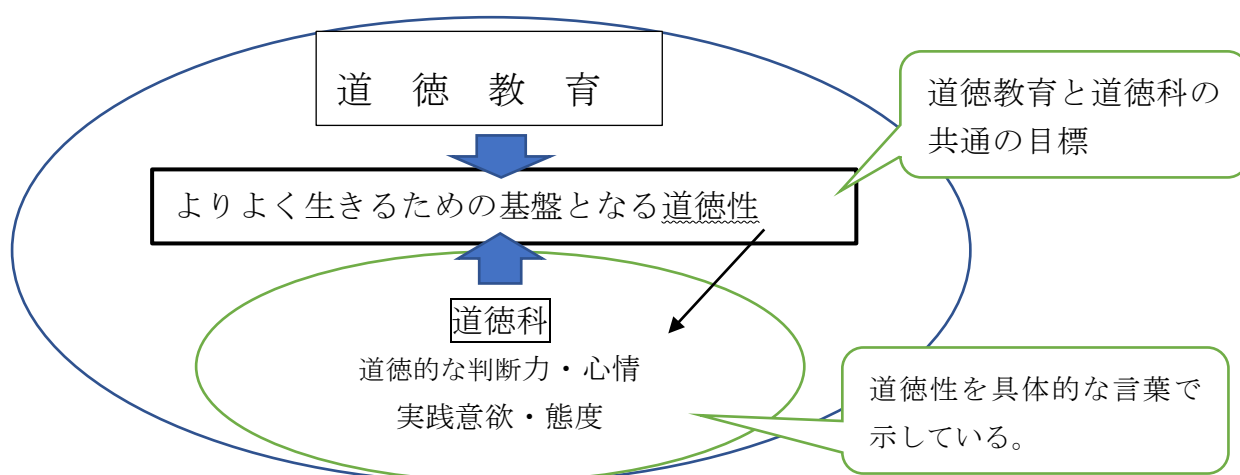
今夏、道徳教育推進研修を受講する機会をいただき、オンライン形式の研修を受けました。研修を通して、これまでの自分自身の道徳科の授業実践を振り返るとともに、道徳教育に関する諸課題の改善に向けた専門的な知見から、多くのことを学ぶことができました。今後も、道徳教育について専門性を高めるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。研修の機会を与えていただき、感謝申し上げます。

① 道徳科と道徳教育の関係性

(出典：令和3年度道徳教育推進研修

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 氏 講義資料)

道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの



② 道徳科の指導過程

一般的には「導入」「展開」「終末」の各段階が設定されている。

導入…主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

展開…中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

終末…ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

③ 教材の活用

道徳科の授業は、教材を理解させることに終始せず、教材を活用して生き方を学ぶ時間であるからこそ、問題意識をもつことが大切である。

桜井小学校 南保 毅教諭は「いじめ問題理解基幹研修」、桜井小学校 高松 知樹教諭は「学校教育の情報化指導者養成研修」を受講しておられます。1月開催予定の黒部市小学校教育研究会個人研究発表会にて、伝達をしていただくことになっています。

2学期の研修会より

【生徒指導主事等研修会 第3回：11月12日（金）

参加者・・・生徒指導主事、カウンセリング指導員・協力員】

東部教育事務所 主任生活指導主事 古市 茂 先生を講師としてお招きし、「不登校・不登校傾向の児童生徒への組織的な対応及び保護者との信頼関係づくり」と題して、ご講話をいただきました。古市先生から、「日常的に『あれっ』と感じることはありませんか。グループ活動をする時に、欠席児童生徒の座席はどうなっているのでしょうか。欠席していてもいつものように座席を運んでグループをつくる教室、欠席者の座席を外してグループをつくる教室、学校として統一されているのでしょうか」との投げかけがありました。日頃から、些細なことでも話題に出し、学校全体として生徒指導の働きかけという面から同じ行動をしていくことが、児童生徒及び保護者との信頼関係につながることを改めて確認しました。



参加された先生方からの感想を紹介します。

- ・不登校児童生徒の数だけ見るのではなく、減った数、増えた数を加味し、数の中味をチェックする必要がある。減らすことに取り組みつつ、増やさないことが大事である。
- ・十人十色の一人一人の生徒理解とはどうあるべきかを改めて考えさせられた。組織として「担任任せにしない」ように、電話のかけ方や家庭訪問の持ち方等について、校内で検討していきたい。
- ・報告・連絡・相談で情報を共有するためには、話しやすい職員室づくりと職員間の相談体制づくりを職員全員で意識できるようにしたいと思った。
- ・子供の異変に気付く感覚をどの職員もある程度のレベルで身に付ける必要性を感じた。
- ・一人一人の理解が基盤となっていること、組織として様々な視点で子供を理解し、対応していくことの大切さを改めて感じた。サインに気付く感覚を大切にしていきたいと思う。
- ・基本的なことは、安心できる学級、分かる楽しい授業づくり、関わる教職員を多くしてアンテナを高くすること等であることを具体的な例をもとにお話しいただき勉強になった。

古市先生よりご紹介がありました。

心のエネルギーの枯渇（生徒指導提要P101 一部抜粋）

コラム

愛される、愛する、大事にする、大事にされる、認める、認められるといった精神的充足が得られることで意欲や成長へのエネルギーが湧いてくる。子どもは家庭でどれだけ心のエネルギーを補充されているだろうか。

様々な問題行動はこうした心のエネルギーの枯渇が原因となっていることが少なくない。「気になる行動」は「もっと私のことを気にしてほしい」、「手のかかる行動」は「もっと早く手をかけてほしい」というメッセージである。

不安や放任などで心のエネルギーの枯渇している児童生徒に「がんばれ」「がまんしなさい」などといっても行動に結び付かない。児童生徒は不安と戦い心のエネルギーを満たすことに精一杯で余力がないからである。

教員が「安心感を与える」「楽しさや充実感を感じさせる」「よく認め、ほめる」ことを通して児童生徒の心のエネルギーを充足することが、指導を根付かせるために必要である。



第16回 黒部市小・中学校科学作品展 最優秀賞



今年度は、市内小中学校から優秀作品58点が集まり、その中から以下の7作品が最優秀賞に選ばれました。さらに厳選された3作品が県出品となり、第80回富山県科学展覧会で賞を受けました。

(◆は県での受賞名)

○きよ年のあさがおは そだつのか

～あたらしいタネとのちがいはあるのか～

荻生小2年 栗林 葵

○とんとんずもうパート2(たのしい土ひょう)

◆研究努力賞 荻生小2年 中嶋 光誠

○モリアオ蛙の観察パート4

◆研究努力賞 若栗小4年 中西 瑠煌斗

○転生してもプラナリアだった件

◆研究努力賞 桜井小5年 山瀬 陽功



○探し続ける 恐竜化石

宇奈月小6年 水野 一真

○ぶどう染めパート2

～媒染と酸性・アルカリ性との関係について～

清明中1年 橋本 拓武

○水と蒸発

明峰中1年 本堂 珠々



第16回 黒部市少年少女発明くふう展 優秀賞



今年度も多くの作品(小学校116作品、中学校13作品)が出品されました。その中から42作品が優秀賞となり、県発明とくふう展に出品されました。

第59回富山県発明とくふう展では以下の15作品が受賞しました。

(◆は県での受賞名)

○簡単たまご割り機

◆県知事賞 桜井小2年 松原 那奈

○コロナをShut out!

障害者用車椅子パーテーション

◆県教育委員会教育長賞
明峰中3年 山本 圭汰

○かた手でプッシュ&キャッチ

◆黒部市長賞 中央小4年 高島 千明

○どこでもサンシェード

◆北日本新聞社長賞
たかせ小5年 谷嶋 康太

○はぶらしケース

◆優秀賞 中央小1年 大畑 煌

○くつ下はける君

◆優秀賞 荻生小6年 梶林 環太

○作品まもる君

◆優秀賞 明峰中2年 内呂 幸慈

○たおれない本棚

◆優秀賞 明峰中2年 吉田 瑞希

○おはなしめんばん

◆奨励賞 村椿小1年 高村 知輝

○かさライト

◆奨励賞 たかせ小2年 浄土 愛也

○片手で計れる調味料ケース

◆奨励賞 生地小4年 近江 ほのか

○なべのふたスタンド

◆奨励賞 村椿小5年 浜松 優成

○火に負けないトング

◆奨励賞 荻生小5年 長矢 空璃

○乾電池ボックス

◆奨励賞 宇奈月小5年 舟本 知生

○ラベルはがし+

◆奨励賞 桜井小6年 渡邊 葉月